

1 課題を抱える業務の内容

当局では、令和6年度までに約13万個のスマートメータを先行的に導入し、その効果を定量的に検証した上で、2030年代までの全戸導入（約808万戸 R5年度末時点）に向けた取組内容を確認していくこととしています。スマートメータの導入により、検針業務の効率化やお客さまサービスの向上などが期待されています。



2 課題の詳細

現時点での仕様では、1日1回の通信で8年間の使用に耐える電池容量しか確保できていません。通信頻度を1時間に1回とするためには、24倍の電池容量が必要となり、コスト増となります。また、通信機器は防水仕様のため電池のみの交換ができず、電池切れの際は通信機器ごとの交換が必要です。

3 こんな技術を求めています！

小型水力発電機等で発電した電力でスマートメータを稼働させる技術